

春のお彼岸

結願法要

左記のとおり春季彼岸会法要を

三月十八日から二十四日までお彼岸
です。この間お寺もしくはご自宅で
の読経供養を致します。ご希望の方
はご連絡ください。

お勤めいたします
ご参詣下さい

三月二十四日（火）

午後一時より

衆僧総供養読經

尚二十一日（土）、二十二日（日）、
の二日間は、お寺にお参りの方はご
参詣になつた順にお勤め致しますの
で予約は不要です。その他の日は住
職、副住職共に外に出ていることが
多いので必ず時間の予約をお願いい
たします。

法話 西原祐治師 （西方寺住職）

*お寺にご遺骨をお預けの方は期間
中必ずお参り下さい

おとき（婦人会の皆様の手作りの
お食事です）

春のお彼岸です。と、書いている今は大寒波が来て北陸や東北、北海道では大雪で大変な事になつてゐるのですが、面白いもので「春」という字を見ているとなんだか柔らかな陽射しと温かさを感じます。

親鸞聖人が顕わした「正信偈」に

煩惱によつて遮られてこの眼には見えずと言えども、阿弥陀如来の大悲は倦くことなく、常に私

を照らしています

と有ります。

親鸞聖人にとって「信心」は仏さまから頂いたも

のです。自らが何かを信じるものではありません。

「イスラム国」地上から無くなれ！

「人を殺し

自分自身の在り方を気づかせていただく働きを感じることです。私たちが自分の力を頼むとき、当然そこには自我の強い意識があります。自我は自分を中心と考え、自分の考えに執着し他を排斥する心です。時には自分を神のように誤解することもあります。邪魔なものを排除し、都合の良い物だけを手に入れる、表層的なその時の気分による「楽」になりたいという私たちの欲求を満足させることが全てになります。

てみたかった」そんな奴を野放しにするな！

「私」が漠然と思っているだけの「安心」を脅かすものは「許せない！」

「許せない」ってお前は神か！と突っ込みが入ります。「神の代理」を名のり人々を蹂躪していく心も我欲迷妄、「人を殺してみたい」という欲求も我欲迷妄、「そんな非道な奴らを排除しろ」と思うのも我欲迷妄です。

「大悲」は仏さまの働きです、むしろ働きそのものが仏さまなのかもしれません。

大悲の光は「私」が我欲迷妄そのものであることを見らし気づかせる働きを持ち、そして人間が迷

い続けて生きて往くしかない根源的な悲しみを

「我が悲しみ」と共感してくれる働きです。今私たちはめまぐるしく変化する社会、あふれて洪水をおこしている情報の中でその場の対応に追われているうちに「幸せになりたい」「癒されて樂になりたい」方向に努力しているのに実は自分が溺れていたり、迷子になっている事にも気づいていないのかもしれません。

お彼岸には、お家のお内仏（お仏壇）、お寺、お墓、場所は問いません。唯、静かにゆっくり手を合わせ、ほとけさまの「本当の願い」、「私」にかかるてる「願い」を聴いていってください。合掌

困つたものでこの寺報は年6回発行しているわけでそのたびに原稿を書かなければならぬのです。で何か「ためになる」事を書かなければ書いている本人が

自分の「生」に向き合わなければいけない時代になつてきました。

「ちやんとした大人にならう」と普通に思つてゐるのでもうかわらず「ちやんとした大人」になつてないわけでそりや「ためになる」事なんか書けるわけなくそれゆえ今回もために成らないことをだらだらと書くのであつた。さて、今年に入つてから「NHK」のテレビで「ネクストワールド」という三十年後の未来を舞台にした特集をやつてました。「すごいなあ！」「おもしろいなあ！」ととても楽しく見ていたのですが何しろ三十年後と云えばどうせ私は死んじやつてるでしようから無責任に見つられます。でももし生きていたらと考えるとかなり不安になります。科学技術が発展し情報が恐ろしく増え、医療の発展に伴い平均の寿命は百歳を超えるらしい。そんな話をあちこちですると皆さん「健康だつたら」「呆けなければ」それもいいけど言います。確かに私もそう思います。

先日お寺の婦人会発足当時のメンバーだつた方が百二歳で亡くなりました。ご家族のお話では亡くなるまで「私は幸せ」と仰つていたそうです。さてこの後、自分の寿命がどこまでかは分かりませんが何があつてもどんな状況でも無条件に生きていることを喜べるのか、「幸せ」と言えるのか、

定例行事

聞法会 每月二日 午後七時より

鉛筆写経 法話 座談会

白色白光の会（婦人会）毎月第2木曜午後1時

正信偈のお勤め、法話 茶話会

グリーフケア（悲しみを共にする）微妙音

年6回 六月十四日午後三時より

悔正寺

練馬区石神井町

3の1714

03-3996-2064